

2014.7.5



# “口短調の世界” — 口短調の名曲を探る



## プログラム

“調性”を特集するシリーズ、第3回目の今日は、口短調で書かれた名曲を集めてお聴きいただきます。バッハのミサ曲口短調は、マタイ受難曲と並んでバッハの宗教音楽を代表する大作で、声楽曲におけるすべての様式がこの曲の中に集約されていると言って良い程、充実した技法で書かれた傑作です。ブラームスのクラリネット五重奏曲は、当時の名クラリネット奏者、ミュールフェルトとの出会いから生まれた最晩年の名曲で、クラリネットの音色と技巧を駆使した美しさに溢れた作品です。サン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番は、美しい豊かな旋律と華麗な名人芸で魅了するロマン派ヴァイオリン協奏曲の名作のひとつ。名手サラサーテに捧げられました。ショパンのピアノ・ソナタ第3番は、運命の女性ジョルジュ・サンドの田舎ノアーンで作曲された作品で、自由な曲想の中に美しさと情熱がちりばめられた名曲です。交響曲第6番「悲愴」はチャイコフスキー最後の交響曲であると同時に最後の作品で、最高傑作のひとつ。“悲愴”という言葉の情景がこれほど音楽として巧みに表現された例もなく、特に第4楽章のアダージョは、絶望と諦め、悲哀が切々とうたわれ、圧倒的な存在感を示しています。

今日は口短調の名曲をたっぷりお聴きください。

\*\*\*\*\*

**ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750):**

**ミサ曲口短調BWV232**

キリエ — 主よ 憐れみたまえ / クローリア — 父の右に座したもう者よ  
神の小羊 / 終曲 — われらに平安を与えたまえ

インゲボルク・ダンツ(アルト) / 菅英三子(ソプラノ) / 吉田浩之(テノール)、妻屋秀和(バス)  
ヘルベルト・プロムシユテット指揮NHK交響楽団 / スウエーデン放送合唱団  
(1998.10.8 NHKホールでのLive)

**ヨハネス・ブラームス (1833~1897):**

**クラリネット五重奏曲口短調op.115 ~ 第1楽章**

サビーネ・マイヤー (クラリネット) / アルバン・ベルク弦楽四重奏団  
(1998.3.2 ウィーン・コンツェルトハウス、モーツァルトサールでのLive)

**カミーユ・サン＝サーンス (1835~1921):**

**ヴァイオリン協奏曲第3番口短調op.61 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章**

シルヴィア・マルコヴィチ (ヴァイオリン)  
マルチエツロ・ヴィオッティ指揮サールブリュッケン放送交響楽団  
(1993.6.27 サールブリュッケン、コンGRESハレ大ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**フレデリック・ショパン (1810~1849):**

**ピアノ・ソナタ第3番口短調op.58 ~ 第1楽章、第3楽章から、第4楽章**

モーラ・リンパニー (ピアノ)  
(1992.4.3 サントリーホールでのLive)

**ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893):**

**交響曲第6番口短調op.74 “悲愴” ~ 第1楽章から、第3楽章から、第4楽章**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1988.5.2 サントリーホールでのLive)